

金華山道

仙台市博物館 学芸普及室 寺澤 慎吾

第14回

金華山への道

本連載第四回では「塩竈・松島への道」を紹介しましたが、今回はさらにその先の、霊場・金華山（大金寺）へ向かう金華山道を取り上げます。

金華山は、仙台からでも条件が整えば、その尖った特徴的な山頂部を見ることが出来ます。松島を描いた絵画作品の多くにも金華山は描かれており、この地域のシンボルの一つでした。

金華山道は、松島から、高城（松島町）―小野（東松島市）―矢本（同前）と進み石巻に至ります。石巻を過ぎると、渡波（石巻市）から舟で金華山へ渡る方法もあったようですが、基本的には牡鹿半島に入り、桃浦・大原・鮎川（石巻市）など、半島の西側の浜を経由して陸路を進みます。鮎川から東へ峰を越え、金華山を眼前に臨む山鳥渡（同前）に着きます。

江戸時代の牡鹿半島、金華山

牡鹿半島周辺は、古くから漁場として知られていましたが、陸地は江戸時代には、仙台藩主の狩猟場としても利用され、

特に初代藩主伊達政宗、二代忠宗、五代吉村は鹿などを狩るため、「遠島」と呼ばれた牡鹿半島を訪れています。

牡鹿半島南端の海上にある金華山は、古代、金が産出されたという伝説のあった場所です。天正年間（一五七三―九二）に僧・長俊が中興したとされる大金寺（のち黄金山神社）には、福德や海上安全などをつかさどる弁財天が祀られました。江戸時代には、金華山講ができ、などして庶民の信仰を集めました。仙台藩主も寺へ寄進などを行っていました。特に四代綱村（延宝三年（一六七五）元禄一年（一六九八）の二度）と五代吉村（宝永六年（一七〇九）、享保四年（一七一九）の二度）は、同寺弁財天堂再建の施主になったことが棟札から分かります。

金華山の案内書

さて、山鳥渡から、舟で対岸へ渡ると金華山に到着します。文政八年（一八二五）に仙台で出版された『金華山詣』（燕石齋薄墨著）の冒頭は、牡鹿半島側から見た金華山の全景図（下図）から始まります。本書では、仙台から



図 燕石齋薄墨『金華山詣』(文政8年) 仙台市博物館蔵

金華山へ至るルートが示されているほか、その途上にある史跡などが紹介されています。ここに描かれた金華山の図を見ると、舟に乗って金華山へ渡る人々や大金寺山内の参詣者が居り、また、「水晶石」「御船石」「仁王さき（崎）」など島内の奇石奇岩に名前が付けられ、参るべき名所が示されていることが分かります。

江戸時代後期、寺社参詣が盛んになると、本書のような読書用の教科書（往来物）を兼ねた寺社の参詣案内本が数多く出版されました。仙台では、本書のほかにも、『仙府年中往来』や『松嶋往来』、『竹駒詣』（いずれも燕石齋薄墨著）などの往来物が著されています。これら往来物は現代の観光にも役立つものが少なくありません。皆さんもこれらを参考にして旅に出てみてはいかがでしょうか。

無料アプリ ミュージアム展示ガイド

ポケット学芸員

Museum guidance Application Pocket Curator

を使った資料解説をはじめました!

仙台市博物館の主な収蔵資料を画像や文字、音声で紹介しています。詳しくは **ポケット学芸員** で検索、またはQRコードからアプリ公式サイトをご覧ください。



仙台市博物館
SENDAI CITY MUSEUM

▶博物館ホームページ
▶博物館ツイッター

仙台市博物館 検索
@sendai_shihaku

▶お問い合わせ

〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡)
TEL:022-225-3074 8:30-17:15
※土・日・祝休日・年末年始(12/29~1/3)を除く

※当館は現在、大規模改修工事のため休館しています。令和6年4月に再開予定です。